

東日本大震災復興記録誌

石 巻 市



石巻南浜津波復興祈念公園と石巻市街

発刊にあたって

石巻市長 齋藤 正美



2011(平成23)年3月11日に発生した東日本大震災から13年が経過しました。

石巻市では3千人を超えるかけがえのない尊い命が失われました。ここに、震災により犠牲になられた方々に対しまして、深く哀悼の意を表しますとともに、心よりご冥福をお祈り申し上げます。

また、襲来した津波により市内は73㎥が浸水し、地震と合わせて5万6千棟を超える建物に被害を受ける大惨事となり、市民の平穏な暮らしはもとより生活を支える都市基盤や産業の多くを失いました。改めまして、被災された全ての方々に心よりお見舞い申し上げます。

東日本大震災による被害からの復興と新しい石巻市の創造を目指し「震災復興基本計画」を策定し、「災害に強いまちづくり」「産業・経済の再生」「絆と協働の共鳴社会づくり」を基本理念として掲げ、総力を挙げて復興に取り組んでまいりました。

本計画に基づく復興財源を活用した道路・街区などの基盤整備や防潮堤・河川堤防などの整備、いわゆるハード事業は、2022(令和4)年度をもちまして完結を迎えました。

本震災において最大の被災地となった本市は、失ったものがあまりに多く、一度は絶望の淵へと突き落とされてしまいました。しかし、本市がここまで歩んでこれたのは、発災直後から不眠不休で職務に携わっていただいた自衛隊、警察、消防、消防団、医療関係者による懸命な救命や救助、そして、日本のみならず世界中から集結したボランティアによる無私のご奉仕をはじめ、全国の自治体、民間の事業者様、関係団体など多くの皆様からの心温まるご支援があったからこそであります。

これらのご支援は、再び平穏な生活を取り戻すべく最初の一步を踏み出すための大きな力となり、心の支えとなりました。改めまして、心より感謝申し上げます。

ハード事業が完結した一方で、心の復興はもとより、地域コミュニティの再構築など、ソフト事業はいまだ完結せず、今後も市民一人ひとりが真の復興を実感できる社会の実現と、心豊かな未来を見据えた地域づくりを目指して、引き続き市民一丸となって取り組んでいかなければなりません。

また、震災の経験と教訓を後世に伝え続け、風化させることなく次の世代へ伝承していくことも我々に与えられた使命であると考えております。

本誌におきましては、本市が歩んできた13年を記録し、被害の概要から初動対応、復旧・復興の内容を紹介しております。

本誌の作成に当たり、資料の提供やご協力いただきました関係者の皆様に心から感謝申し上げますとともに、本誌が今後起こり得る大災害への対策の一助となることを祈念いたしましてごあいさつとさせていただきます。

2024(令和6)年3月

序 章

石巻市の概要	8
石巻地区	11
河北地区 雄勝地区	12
河南地区 桃生地区	13
北上地区 牡鹿地区	14

第 1 章

巨大地震の発生

第1節 マグニチュード9.0(Mw)の地震と大津波

1.「平成23年(2011年)東北地方太平洋沖地震」	16
(1)国内観測史上最大規模の巨大地震	16
(2)各地の震度	17
(3)地殻変動	18
(4)東北地方太平洋沖地震のメカニズム	19
(5)活発化から終息へ～被災後10年の地震活動～	20

2.甚大な被害をもたらした津波

(1)津波の概要	22
(2)海外の状況	24

第2節 石巻市の被害状況

1.最大の被災地石巻市

(1)地震発生と津波襲来	26
(2)市内の津波浸水状況	30
(3)人的被害	32
(4)住宅等物的被害	34

2.地区別被害状況

(1)石巻地区	36
(2)河北地区	42
(3)雄勝地区	44
(4)河南地区	46
(5)桃生地区	47
(6)北上地区	48
(7)牡鹿地区	50

3.産業の被害

(1)水産業	52
(2)農林業	55
(3)商工業	56

4.公共施設の被害

(1)学校・幼稚園	58
(2)その他の公共施設	60

5.医療・福祉施設などの被害

(1)医療施設	62
(2)保育所・福祉施設	63

6.インフラ・ライフラインの被害

64

第 2 章

本市の災害対応、救助と復旧への支援

第1節 災害対応

1.本庁の対応	68
(1)災害対策本部の設置	68
(2)津波発生の情報とその対応	70
(3)津波火災とその対応	71
(4)情報の収集	72
(5)本庁各災対部職員の視点	79
(6)発災当日の各災対支部(総合支所)の対応	82
(7)市民への情報発信	85

2.緊急対策と並行した震災復興基本方針の策定

(1)復興対策室・震災復興推進本部の設置	86
(2)震災復興基本方針の策定	87

第2節 救助と復旧への支援

1.救助と仮埋葬

(1)人命救助	88
(2)ご遺体の収容と仮埋葬	89

2.避難者の受け入れ

(1)発災直後の避難の状況	90
(2)避難所の開設・運営	90

3.各自治体からの人的支援

(1)応援職員の受け入れ	92
--------------	----

4.応急仮設住宅の整備

(1)プレハブ仮設住宅	93
(2)みなし仮設住宅	95

5.各種生活支援

(1)窓口業務の再開	96
(2)初期段階での主な支援	96



第 3 章

石巻市震災復興基本計画

第1節 震災復興基本計画策定の経過

1. 震災復興基本方針から震災復興基本計画へ 98

第2節 震災復興基本計画の概要

1. 復興の基本的な考え方 101

- (1) 復興の基本理念 101
- (2) 計画期間 101
- (3) 復興の主体 102
- (4) 対象地域 102
- (5) 土地利用の考え方 102

2. まちづくり施策大綱 104

3. 地区別整備方針 106

- (1) エリア区分の考え方 106
- (2) 市街地エリア 106
- (3) 総合支所エリア 113

4. 重点プロジェクト 127

- (1) 安心安全再生プロジェクト 127
- (2) 住宅再建復興プロジェクト 128
- (3) まちなか再生プロジェクト 129
- (4) 海と大地との共生プロジェクト 129
- (5) 絆づくりプロジェクト 130
- (6) 石巻さきがけプロジェクト 130
- (7) 未来への伝承プロジェクト 130

第 4 章

みんなで築く災害に強いまちづくり

第1節 新たな防災体制の構築

1. 防災施設の整備 132

- (1) 防災拠点・機能の整備 132
- (2) 避難所の配置・運営の見直し 134
- (3) 避難ビル等の配置・機能整備 136

2. 情報伝達手段の整備 140

- (1) 防災行政無線等の強化 140
- (2) IT・携帯電話回線のバックアップ機能強化 143

3. 防災対策の見直し 144

- (1) 地域防災計画等の見直し 144
- (2) 地域コミュニティによる自主防災組織の機能強化 150
- (3) 安全かつ円滑に避難できる避難路の設定 150
- (4) 女川原子力発電所等の安全確保 151

4. 震災記録の継承 152

- (1) 災害アーカイブの公開と記録展示施設の整備 152
- (2) 慰霊碑の建立や震災施設の保存 155

第2節 地域の力でみんなで守る

1. 地域コミュニティの再生支援 161

- (1) 行政区機能の復旧 161
- (2) コミュニティ支援による絆の形成 161
- (3) 集会所等コミュニティ施設の復旧 163
- (4) 多文化共生社会の構築 166
- (5) 協働のまちづくりの推進 166

第3節 減災まちづくりの推進

1. 都市基盤の復旧・復興 170

- (1) 市街地の整備 170
- (2) 沿岸部集落の整備 180
- (3) 道路・橋りょうの整備 188
- (4) 雨水排水施設の整備 202
- (5) 下水道施設の整備 202
- (6) 公園緑地の整備 204
- (7) 上水道施設の整備 208

2. 新エネルギー等の活用 210

- (1) 新エネルギー等の活用による環境に配慮した
災害に強いまちづくりの推進 210

第 5 章

市民の不安を解消し、 これまでの暮らしを取り戻す

第1節 迅速な生活・健康支援と福祉・医療の確保

1.被災者への生活支援	216
(1)生活に必要な資金の支援	216
(2)災害ボランティア活動の円滑な運営支援	221
(3)消費生活相談等業務の実施	224
(4)応急仮設サポートセンター等の整備と支援の実施	227
(5)交通弱者対策	235
(6)支援で生まれた「絆」の継続と地域活性化	237
2.被災者の健康支援	238
(1)心のケア事業の実施	238
(2)予防接種や健康診断の受診しやすい体制整備	240
(3)疾病予防及び健康支援事業の実施	241
(4)栄養・食生活支援事業の実施	242
(5)口腔のケア対策	243
(6)健康関連施設の復旧・復興	244
3.地域福祉の復旧・復興	246
(1)民生委員・児童委員活動の早期再開	246
(2)適切なニーズ把握に基づく各種計画の策定・見直し	247
(3)各種福祉サービスの復旧とサービス事業者への支援	250
4.地域医療の復旧・復興	252
(1)復旧期における診療体制の整備	252
(2)再生・発展期に向けた地域医療の復興	254

第2節 住まいの再建

1.恒久住宅の復旧・復興	256
(1)住生活基本計画及び長寿命化計画の見直し	256
(2)市営住宅の復旧整備	256
(3)災害公営住宅の整備	257
(4)民間住宅の復興の推進	261

第3節 職の再建

1.雇用の維持と創出	266
(1)雇用維持のための支援	267
(2)雇用の創出	268

第4節 各種公共施設の復旧と復興

1.行政庁舎の復旧整備	272
(1)本庁舎の復旧整備	272
(2)総合支所庁舎等の復旧整備	272
2.消防施設等の復旧・再編	275
(1)消防署所施設・車両の復旧・再編整備	275
(2)消防団施設・車両等の復旧・再編整備	277

第5節 生活環境の整備

1.災害廃棄物の処理	278
(1)災害廃棄物の適切な処理	278
2.震災に係る犠牲者の哀悼施設の整備	280
(1)震災に係る納骨堂、遺留品保管施設及び新墓地整備	280
3.公共交通の復旧	282
(1)JR仙石線・JR石巻線・JR気仙沼線の早期全線復旧	282
(2)バス路線の再構築	283
(3)離島航路の整備	283

第 6 章

自然への畏敬の念を持ち、 自然とともに生きる

第1節 海とともに生きる

1.港湾の復旧・復興	286
(1)石巻港の活用とポートセールス	286
2.漁港及び魚市場の復旧・復興	288
(1)漁港の復旧・復興、機能の集約化	289
(2)石巻市水産物地方卸売市場の整備	292
(3)放射能問題への対応	294
3.被災水産業への再建支援	295
(1)沿岸漁業の復旧・復興支援	295
(2)水産加工業の復旧・復興支援	298
4.商業の再建復興	304
(1)商業の再建に向けた支援	304
5.工業の再生復興	309
(1)経営の安定化、販路拡大等に向けた支援	309

第2節 川とともに生きる

1.中心市街地商店街の復旧・復興	310
(1)中心市街地商店街の復旧・復興	310

第3節 大地とともに生きる

1.被災農林業への再建支援	315
(1)農業の復旧・復興支援	315
(2)畜産業の復旧・復興支援	320
(3)林業・木材産業の復旧・復興支援	321
(4)放射能問題への対応	321

第4節 地域資源を活かす

1.観光業・施設の再生復興	323
(1)観光施設の復旧・復興	324
(2)復興促進イベントの開催	329
(3)新規観光戦略施設の整備	333
2.伝統産業の再生復興	338
(1)伝統産業の再生復興	338



第 7 章

未来のために伝統・文化を守り、 人・新たな産業を育てる

第1節 未来の人を育てる

1. 学校教育・社会教育施設等の復旧・復興 340
 - (1) 学校教育施設等の復旧・復興 340
 - (2) 社会教育施設・社会体育施設の復旧・復興 350
 - (3) 文化財等の復旧・復興 356
 - (4) 生涯学習・生涯スポーツ・文化芸術の推進 358
 - (5) 高等教育の充実による人材の育成 359

2. 子育て環境の復興 360
 - (1) 保育所の復旧 360
 - (2) 放課後児童クラブの復旧・充実 363

3. 子どものケアの実施 364
 - (1) 被災児童・生徒等への支援、心のケア 364

第2節 企業誘致と新産業の創出

1. 産業の活性化と新産業の育成 368
 - (1) 震災復興特区を活用した企業誘致及び
新産業の育成 368
 - (2) 6次産業化による産業の再生 373
2. 新エネルギー等関連産業の集積 378
 - (1) 新エネルギー等関連産業の集積 378

資料 編

東日本大震災からの歩み	380
分野別の取組・出来事	386
1. 住まいの再建	386
2. 医療・福祉・教育の再生	387
3. 産業の復興	388
4. 観光の復興	389
全国からの支援	390
1. 災害ボランティアの状況	390
2. 他自治体からの派遣状況	391
3. 東日本大震災災害義援金	394
4. 寄附金	396
復旧・復興に係る事業費	397
東日本大震災復興交付金	398
災害協定一覧	400
1. 広域関連団体等協定	400
2. 広域避難に関する協定	400
3. 相互応援協定	400
4. 支援協力に関する協定	401

2005（平成17）年4月、石巻市・河北町・雄勝町・河南町・桃生町・北上町・牡鹿町の1市6町が合併し、新しく誕生した石巻市は、宮城県北東部に位置する県内第二の人口を擁する都市です。

岩手県から流れる北上川が本市へ入ったところで二手に分かれ、それぞれ追波湾と石巻湾に注いでおり、石巻湾の河口周辺に市街地が広がっています。市の東部と牡鹿半島は、北上山地の最南端に位置し、リアス海岸の複雑な地形で、漁業や養殖業が盛んです。特に金華山沖（三陸沖）は、黒潮（暖流）と親潮（寒流）がぶつかる潮目として世界三大漁場の一つで、水産資源の宝庫となっています。

さらに、旧北上川がもたらした肥沃な土壌から稲作を中心とした農業も盛んで、施設野菜や花きなどの園芸作物に加え、肉用牛生産などの畜産経営を組み合わせた、バランスのとれた高度な複合経営農業が展開されています。

また、1964（昭和39）年に新産業都市の指定を受けてからは、石巻工業港（現仙台塩釜港（石巻港区））が開港し、工業都市としても発展を遂げてきました。さらに、石巻専修大学の開学、三陸縦貫自動車道の延伸、石巻港の拡張が進み、外国船が入港し、都市機能の整備も進みました。

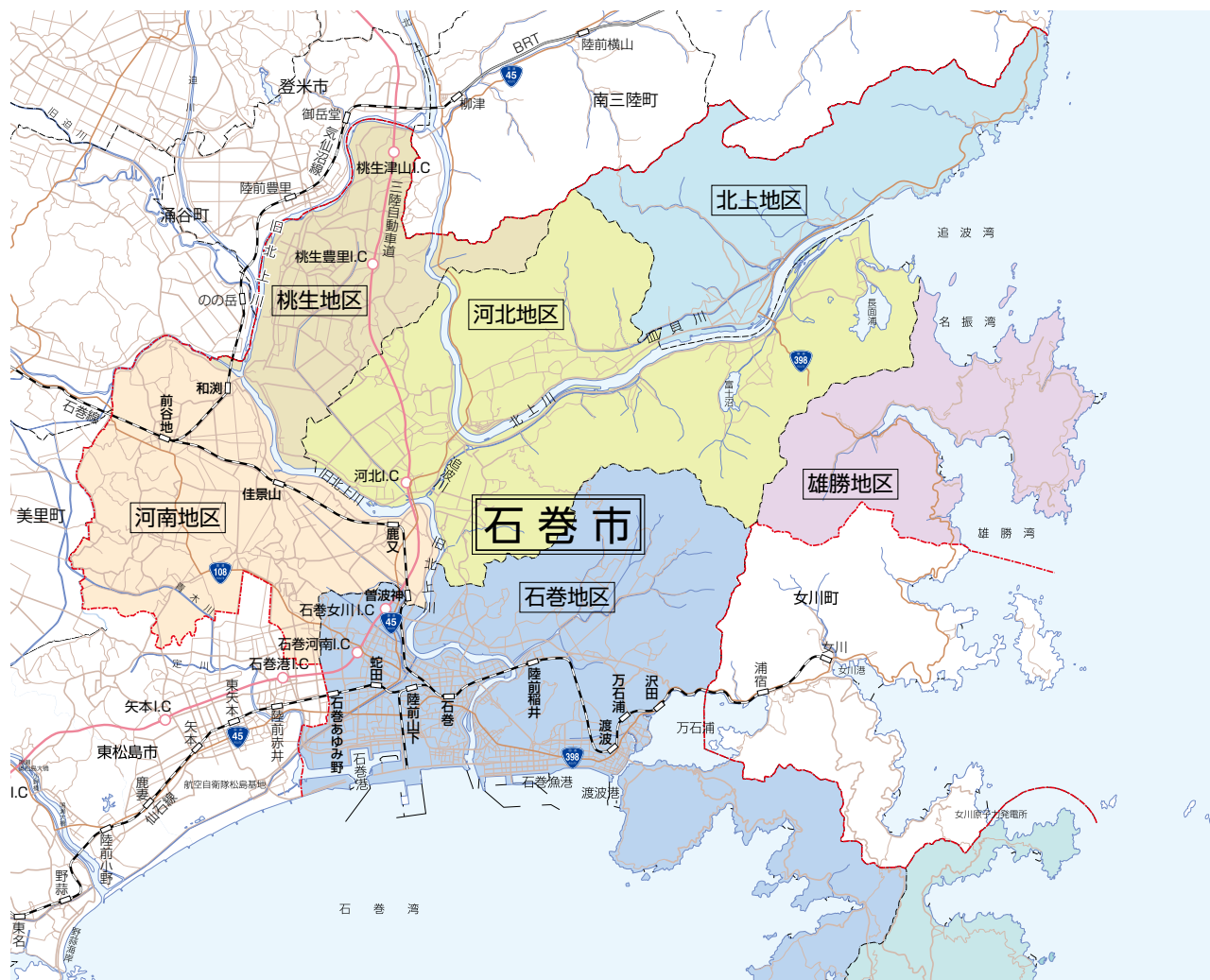
観光面では、三陸復興国立公園にも指定されている東部のリアス海岸と霊島・金華山、慶長遣欧使節の歴史を紹介するサン・ファン館と隣接するサン・ファンパーク、故・石ノ森章太郎氏の作品を収蔵した「石ノ森萬画館」、捕鯨のミュージアム「おしかホエールランド」などの観光レクリエーション施設も整備されました。

しかし、2011（平成23）年3月11日、東北地方太平洋沖地震が発生。激しい揺れと、その後に沿岸全域に襲来した巨大津波は、市民を守るべき防潮堤を破壊し多くの人命を奪い、私たちの住まいや働く場、各施設、道路、港湾・漁港など多くの財産も失われました。被災後、国・県をはじめ、全国の企業や自治体、ボランティアの方々などによる多くの、そして心温まる支援により、復旧・再生・発展へ歩んできました。



日和山より中瀬方面の眺望（2023（令和5）年4月）

❖石巻市全域図



❖石巻市の人口・世帯数・人口密度・面積

		2010 (平成22)年10月	2020 (令和2)年10月	増減
石巻市全体 面積 555.45km ²	人口(人)	160,826	140,151	▲ 20,675
	世帯数(戸)	57,871	56,768	▲ 1,103
	人口密度(人/km ²)	290	252	▲ 38
石巻地区 面積 137.26km ²	人口(人)	112,683	99,904	▲ 12,779
	世帯数(戸)	42,964	42,930	▲ 34
	人口密度(人/km ²)	821	728	▲ 93
河北地区 面積 125.09km ²	人口(人)	11,578	9,878	▲ 1,700
	世帯数(戸)	3,329	3,416	▲ 87
	人口密度(人/km ²)	93	79	▲ 14
雄勝地区 面積 46.12km ²	人口(人)	3,994	1,031	▲ 2,963
	世帯数(戸)	1,514	465	▲ 1,049
	人口密度(人/km ²)	87	22	▲ 65
河南地区 面積 69.33km ²	人口(人)	16,950	18,481	▲ 1,531
	世帯数(戸)	5,080	6,115	▲ 1,035
	人口密度(人/km ²)	244	267	▲ 23
桃生地区 面積 43.82km ²	人口(人)	7,582	6,629	▲ 953
	世帯数(戸)	2,134	2,137	▲ 3
	人口密度(人/km ²)	173	151	▲ 22
北上地区 面積 60.98km ²	人口(人)	3,718	2,135	▲ 1,583
	世帯数(戸)	1,019	691	▲ 328
	人口密度(人/km ²)	61	35	▲ 26
牡鹿地区 面積 72.98km ²	人口(人)	4,321	2,093	▲ 2,228
	世帯数(戸)	1,831	1,014	▲ 817
	人口密度(人/km ²)	59	29	▲ 30

※人口・世帯数・人口密度は、2010(平成22)年、2020(令和2)年国勢調査による。
 ※「石巻市全体」の面積は2023(令和5)年10月1日時点、各地区の面積は2004(平成16)年10月1日時点の数値。
 ※面積は、国土地理院の「全国都道府県市区町村別面積調」より引用。



市章

[2005(平成17)年4月制定]

市のキャラクター
いしぴょんず

[2009(平成21)年4月制定]



市の木 クロマツ

[2005(平成17)年10月制定]



市の花 ツツジ

[2005(平成17)年10月制定]

❖成り立ち

年歴	旧石巻市	旧河北町	旧雄勝町	旧河南町	旧桃生町	旧北上町	旧牡鹿町
1889 (明治22)	石巻村、門脇村、湊村が合併し、石巻町となる。	飯野川村、大谷地村、二股村、大川村となる。	十五浜村となる。	深谷村、鹿又村、前谷地村となる。	桃生村、中津山村となる。	桃生郡橋浦村、本吉郡十三浜村となる。	鮎川村、大原村となる。
1896 (明治29)	明治三陸地震による大津波が襲来						
1901 (明治34)		飯野川村が飯野川町となる。		深谷村が須江村・広瀬村・北村・赤井村・大塩村に分離する。			
1906 (明治39)							捕鯨開始。
1911 (明治44)	北上川改修工事開始。	北上川改修工事開始。			北上川改修工事開始。	北上川改修工事開始。	
1912 (大正元)	仙北軽便鉄道(現石巻線)が石巻～小牛田間開通。	二股村から二俣村へ改称。		仙北軽便鉄道(現石巻線)が石巻～小牛田間開通。			
1933 (昭和8)	昭和三陸地震による大津波が襲来						
	石巻町が石巻市になる。	天王橋(木製・有料)が完成。		及川橋が完成。			
1940 (昭和15)	東北振興パルプ石巻工場(現日本製紙石巻工場)操業開始。						鮎川村が鮎川町になる。
1941 (昭和16)			十五浜村が雄勝町となる。	神取橋の船橋が木桁橋となる。	神取橋の船橋が木桁橋となる。		
1945 (昭和20)	石巻が空襲を受ける。						
1955 (昭和30)	蛇田村、荻浜村が石巻市と合併する。	飯野川町、大谷地村、二俣村、大川村が合併し、河北町となる。		広瀬・須江・北村・前谷地・鹿又の5カ村が合併し、河南町となる。	桃生村、中津山村が合併し、桃生町となる。	橋浦村、十三浜村が合併し、北上村となる。	鮎川町、大原村が合併し、牡鹿町となる。
1959 (昭和34)	渡波町が石巻市と合併する。	天王橋が開通。					
1960 (昭和35)	チリ地震津波が三陸沿岸に襲来						
			町立病院が完成。		国民健康保険診療所・母子健康センターが完成。		
1962 (昭和37)						北上村から北上町となる。橋浦診療所開設。	
1967 (昭和42)	稲井町が石巻市と合併する。	学校給食開始。					
1978 (昭和53)	宮城県沖地震が発生(石巻の震度5)						
					神取山浄水場ができ、上水道が始まる。		町民グラウンドが清崎に完成。
1984 (昭和59)							東北電力女川原子力発電所が運転開始。
1987 (昭和62)		釜谷トンネルが開通。	釜谷トンネルが開通。B&G海洋センターが完成。				商業捕鯨終了。
1989 (平成元)	石巻専修大学が開学。				保健センターが完成。	新相川橋、相川トンネル、小指トンネルが開通。	
1990 (平成2)			雄勝現伝統産業会館が完成。	旭山農業体験実習館が完成。	町民武道館「桃武館」が完成。		おしかホエールランド、御番所公園が完成。
1993 (平成5)	復元船サン・ファン・バウティスタ号が完成。	学校給食センターが完成。	クリーンセンターが完成。		地域福祉センターが完成。		
1995 (平成7)						十三浜トンネルが開通。	クリーンセンターが完成。
1996 (平成8)	サン・ファン館が開館。		「雄勝法印神楽」が国の重要無形民俗文化財に指定。		寺崎はねこ踊り保存会が「宮城地域づくり大賞」を受賞。	「北上川河口のヨシ原」が日本の音風景100選に入選。	
1998 (平成10)	市立病院が開院。三陸自動車道(石巻河南IC)が開通。		雄勝石ギャラリーが完成。	カントリーエレベーターが完成。			
1999 (平成11)					チェニジア通りが開通。	保健医療センターが完成。	県道石巻鮎川線の風越トンネル・風越橋が開通。
2005 (平成17)	石巻市、河北町、雄勝町、河南町、桃生町、北上町、牡鹿町の1市6町が合併し、石巻市となる。						
2008 (平成20)	平成20年(2008年)岩手・宮城内陸地震が発生						
2011 (平成23)	東日本大震災発生						



石巻地区

1889(明治22)年の市町村制施行時に石巻村、門脇村、湊村の3村で石巻町となり、その後1933(昭和8)年4月に市制施行しました。藩政時代には、北上川流域から米を集積し江戸や大坂への積出港として栄えました。また、世界三大漁場の一つ、三陸金華山沖を生かした漁港として発展し、日本有数の漁港となりました。石巻線・仙石線の鉄道と三陸自動車道の交通網の整備、東北振興パルプ(現日本製紙㈱石巻工場)の操業開始、石巻工業港(現仙台塩釜港(石巻港区))・石巻新漁港の開港による産業整備、さらには石巻専修大学の開学など、周辺地域の中核都市として発展してきました。



石巻市役所



日和山からの眺望(2008(平成20)年)



石巻川開き祭り花火大会



石巻漁港・石巻魚市場



仙台塩釜港(石巻港区)

河北地区

1889(明治22)年に市町村制を施行した石巻町・渡波町に続き、1901(明治34)年に町となった飯野川町に大谷地村、二俣村、大川村が加わり1955(昭和30)年3月に桃生郡河北町が誕生しました。藩政時代には、北上川における舟運でにぎわった地区です。主に北上川がもたらす豊穡な土地での農業が盛んな地区で、特に湧き出る豊富な湧水で育てるせりは「河北せり」としてブランド化しています。また、海水と淡水が混ざり合う北上川河口で採れるシジミは、殻がべっこう色をしていることから「べっこうしじみ」と呼ばれ特産となっています。成田地域には総合施設・河北総合センター「ビッグバン」があります。



河北総合支所



新北上大橋



河北総合センター「ビッグバン」



べっこうしじみ



追波川河川運動公園



道の駅上品の郷

雄勝地区

1889(明治22)年の市町村制施行の際、地域の15の浜からなる桃生郡十五浜村が誕生しました。その後、1941(昭和16)年4月、町制施行の際に雄勝町となりました。室町時代からの歴史と伝統を誇る雄勝硯は、国の「伝統的工芸品」の指定を受けており、雄勝硯伝統産業会館もあります。また、リアス海岸の恩恵を受けた沿岸漁業が盛んで、ホタテやホヤなどの養殖も行われています。また、伝統芸能も盛んで、国指定重要無形民俗文化財の雄勝法印神楽や、名振地域には県指定無形民俗文化財の「おめつき」があります。



旧雄勝総合支所



雄勝湾



大須崎灯台



おめつき



船越漁港



雄勝法印神楽

河南地区

1955(昭和30)年3月、鹿又村、前谷地村、北村、広瀬村、須江村の5村の合併で桃生郡河南町として誕生しました。町内には国道45号・108号、JR石巻線・気仙沼線が通り、須江地域には高台のニュータウン「しらさぎ台」があります。稲作を中心とした農業が盛んな地区で、春の桜が有名な県立自然公園旭山や東北の豪農地主であった齋藤家の齋藤氏庭園・宝ヶ峯縄文記念館、総合施設「遊楽館」などがあります。江戸時代から続く伝統的な勇壮なお祭り「鹿嶋ばやし」も有名です。



河南総合支所



旭山



齋藤氏庭園



宝ヶ峯縄文記念館



遊楽館



鹿嶋ばやし

桃生地区

1955(昭和30)年3月、桃生村と中津山村の合併で桃生郡桃生町として誕生しました。北上川・旧北上川に囲まれた地区で、東に北上山地、西に奥羽山脈を望みます。寺崎地域の「はねこ踊り」は県指定無形民俗文化財であり、江戸時代から続く豊年踊りで全国に類のない3つのお囃子からなるリズムカルな民俗芸能です。また、栽培当初、日本北限のお茶として生産され、今もなお親しまれている「桃生茶」をはじめ、農業が盛んな地区です。



桃生総合支所



植立山公園



はねこ踊り



桃生茶



桃生総合センター

北上地区

1889(明治22)年の市町村制施行で誕生した桃生郡橋浦村と本吉郡十三浜村が1955(昭和30)年3月に合併し、桃生郡北上村として誕生しました。その後、1962(昭和37)年4月に北上町となりました。豊かな自然が残る地区で、イヌワシの営巣が確認された翁倉山や岬の間から見える日の光が美しい景勝地「神割崎」があります。また、北上川の川沿いには、「日本の音風景100選」に選定されたヨシの群生地があり、秋冬には金色に輝くじゅうたんのような風景も見られます。



旧北上総合支所



ヨシ原



翁倉山



神割崎



釣石神社



白浜海水浴場

牡鹿地区

1889(明治22)年の市町村制施行で誕生した牡鹿郡鮎川村と大原村。鮎川村は、1940(昭和15)年に単独で鮎川町となり、その後、1955(昭和30)年3月に大原村と合併し、牡鹿郡牡鹿町として誕生しました。参詣客で賑わった霊島・金華山と網地島を抱える牡鹿半島は林業と水産業を生業とし、少ない平地に集落ができた地区です。中でも鮎川は日本を代表する捕鯨基地として栄え、その文化をおしかホエールランドで見ることができます。また、夏には1953(昭和28)年から海難事故者の慰霊・鯨霊供養を込めた「牡鹿鯨まつり」が開催されます。



牡鹿総合支所



金華山



黄金山神社



網地白浜海水浴場



旧おしかホエールランド



牡鹿鯨まつり